

告示	番号	36	慢性心疾患
	疾病名	心臓腫瘍	

心臓腫瘍

しんぞうしゅよう

概念・定義

心房、心室に発生する腫瘍。良性が多く、悪性は少ないが（10%）、良性でも心機能に悪影響を与えると予後不良となる。組織学的には、横紋筋腫、線維腫、粘液腫、奇形腫、脂肪腫、肉腫などがある。横紋筋腫は、新生児期から発症して、予後不良のことがある。右室、左室に多発性のことが多い。線維腫は、右室、左室に発生し、突然死の原因となる。粘液腫は心房に発生し、短茎を有して心房内に突出する。血行動態異常をきたしているものは、摘出可能な部位、大ききであれば手術をおこなう。血行動態異常をきたしていても手術ができない例では予後不良である。

症状

腫瘍が大きいと易疲労など心不全症状。無症状のこともある。腫瘍の場所により、血流障害、刺激伝導障害、心筋収縮障害などをきたす

治療

摘出可能な部位、大ききであれば手術をおこなう。一般に手術での摘出は困難のことが多い。腫瘍が大きいと予後不良である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_19_23.html